

立体トラスの鉛直荷重実験を実施

鋼構造実験見学会に約50人が参加



中西教授

研究・実験の概要を説明。耐力、座屈モードを観測

端部扁平加工鋼管を用いた。試験体鋼管はP-

立体トラス構造の構造安全 48・6×3・2とP-60

性に関する研究は、岡山県 5×3・2 (STK 4

のMグレードファブ、モリ 00)を使用した。

ヤテクノ(守谷悟社長)か。その後の質疑応答では、

ら委託されたもの

で2015年に開

始。2016年度

は、1面せん断に

よる偏心を考慮し

た座屈耐力を把握

するため、鋼管単

体(P-60・5×

3・2)の座屈実

験を実施した。

実験では端部扁

平加工鋼管を用い

た立体トラスに鉛

直荷重を作用させ、

トラス部材として

の挙動と耐力を確

認。試験体のトラ

ス部材に加圧機で

荷重を加え、端部

部材の変形や座屈

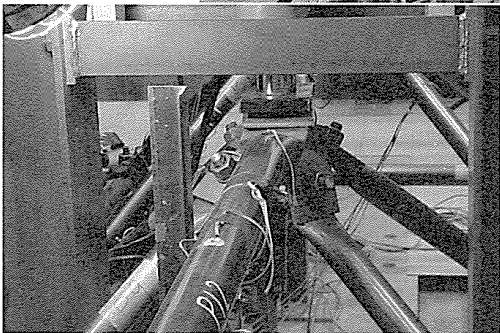
実際の座屈変形事例や偏心
防止の座金などについて意
見が交わされた。

中西教授は「端部変形加
工の座屈を予想することは
難しい。実験データを参考
に座屈の予測式などを検討
したい」と述べた。実験結
果は次年度の建築学会全国
大会で発表される予定とな
っている。

なお、鋼管端部にプレス
と孔あけ加工を行い、接合
板でボルト接合するトラス
製品としては、モリヤテク
ノの「SKYトラス」(I
面せん断接合)と九州第一
工業の「DI式スペースト
ラス」(2面せん断接合)
がある。



上||端部扁平加工鋼管を用
いた立体トラスに鉛直荷重
を作用させ、トラス部材と
しての挙動と耐力を確認、
下||座屈した端部



日本建築学会・中国支部
(支部長||田川浩・広島大
学大学院教授)は15日、岡
山県岡山市の岡山理科大学
構造実験室で第17回鋼構造
実験見学会を開催した。同
事業は広島県鉄構工業会と
日本建築構造技術者協会
(略称・JSCA)が協賛
している。当日は全国鐵構
工業協会・中国支部所属の
組合員やJSCA会員ら約
50人が参加した。

今回は「端部扁平加工鋼
管を用いた立体トラスの鉛
直荷重実験」をテーマに岡
山理科大学建築学科の中西
啓二教授が講師を務めた。
中西教授は実験に先立ち、